

広がる国際交流

—— 富山県・サンパウロ州友好提携協定締結 ——



▲記念品を交換し、固い握手

サンパウロの位置



本年七月十八日午後六時三十分（日本時間七月十九日午前六時三十分）、富山県とブラジル連邦共和国サンパウロ州との間で友好提携協定の調印式が行われました。中沖富山県知事とアンドレ・フランコ・モントローサンパウロ州知事が協定書に署名し、富山県旗とサンパウロ州旗および記念品の交換が行われました。

調印式

調印式は、サンパウロ市のサンパウロ州政庁バンデイランテイス宮殿で行われました。富山県側からは、中沖富山県知事、小倉富山県議会議長をはじめとした調印団一行とブラジル富山県人会の皆さん、県内の現地進出企業の代表者等が出席しました。また、サンパウロ州側からは、モントローサンパウロ州知事を筆頭に関係者多数が出席、調印は総勢約三百名という大勢の見守るなか、厳粛に取り行われました。

サンパウロ州とは

▼地理▲

州の面積は、二十四万七千八百九十八平方キロとブラジル全土の三割にしか当たりませんが、富山県の約五十八倍、日本の本州と四国を合わせた広さに相当します。

州都サンパウロ市は、南回帰線上にあり、ブラジル最大の貿



▲サンパウロの市街地

▶開拓先没者慰霊碑に参拝



▼ブラジル富山県人会創立25周年記念式典であいさつする知事



県内都市のサンパウロ州諸都市との姉妹提携

- 1974 高岡市とミランドポリス市(人口3万6千人)
- 1979 富山市とモジダスクルーゼス市(人口19万8千人)

知事からモントーロサンパウロ州知事に対し、次の事業の提案が行われました。

(一) 日本文化に関する図書およびポルトガル語による農工業に関する技術図書の寄贈

(二) サンパウロ州政府推せんによる海外技術研修員一名の受け入れ

各種交流事業の実績

年	内 容
1964	県費留学生受け入れ始まる
1972	永年移住者の郷土招へい事業開始
1974	第4回 県青年の翼の派遣(87人)
◇	海外技術研修員の受け入れ始まる
1977	県南米慰問団の派遣(127人)
1978	日本語教師の派遣始まる
1979	県南米協会の設立(310会員)
1983	第13回 県青年の翼の派遣(82人)
◇	置県百年記念南米親善訪問団の派遣(106人)
◇	富山県及びサンパウロ州の友好県州協定締結に関する意図表明書に署名・交換(長島副知事、モントーロ州知事)

この提案は快く受け入れられ、従来から行われている海外技術研修員、県費留学生の受け入れや日本語教師の派遣、永年移住者の郷土招へいなどの事業に併せ、ますます交流が深まることになりました。

今日の国際社会は、年々相互依存関係を深めています。今や、「外交」は、国家間だけのものに留まらず、国家の枠を離れて市民と市民が手を取り合い、心を通わせる「国民外交」の展開が強く叫ばれている時代です。

県では、今回のサンパウロ州との友好県州締結のほか、昨年五月九日には、中国遼寧省との間に友好県省を締結しています。これらの友好県州(省)の締結は、単に自治体同士の取り決めではなく、両県州(省)民自身のものとして、これらの協定がひとつの契機となって友好交流の輪が一段と広がり、県民一人ひとりとっても身近なものになることが期待されます。

日本国富山県とブラジル連邦共和国 サンパウロ州との友好提携協定

日本国富山県とブラジル連邦共和国サンパウロ州とは、両県州の多年にわたる友好交流を基礎に、相互の理解を深め、友好関係をさらに推進することを確約し、ここに友好提携の協定を締結する。

両県州は、両国政府の支持のもとに両国の法令を尊重の上、相互に関心のある分野において交流を促進し、両県州の友好関係を一層発展させるよう努めるものとする。

両県州は、この協定が富山県とサンパウロ州を結びぎざとなり、かつ、両県州民の友好関係の緊密化のための礎となることを確信する。

この協定は、署名の日から効力を生ずる。

両県州の代表は、1985年7月18日にブラジル連邦共和国サンパウロ市において、この協定に署名した。

この協定は、ともに同等の効力を有する日本語及びポルトガル語により本書各2通作成され、それぞれの署名当事者が日本語及びポルトガル語による本書を各1通保有する。

日本国富山県知事 中 沖 豊
ブラジル連邦共和国サンパウロ州知事 アンドレ・フランコ・モントーロ

易港サントスの北六十八キロに位置します。

気候は、亜熱帯に属しますが、海拔八百メートルの緩やかな波状をした高原に位置するため、温帯に近く過ごしやすいとされています。

▽人口・産業△

州の人口は、約二千五百三十六万人(一九八〇年)と富山県の約二十三倍。そのうち日系人は六十一万人、ブラジル全体の日系人の約七十五万が、このサンパウロ州で生活しています。また、富山県出身の移住家族は百九十一世帯、約二千人の方がおられます。

ところで、サンパウロ州は、ブラジルの経済のうえで最も重要な州です。ブラジル工業製品の六十パーセント、農産物の十六パーセントを生産し、GNP(国民総生産)の約十七パーセントを占めています。さらに、サンパウロ州への外国企業の進出は著しいものがあり、日本からも約五百社が進出しており、ラテンアメリカ最大の工業中心地となっています。

交流の経過

富山県とサンパウロ州の結びつきは古く、一九一〇年(明治四十三年)ブラジル移民、内山仁之助(富山市)、青木吉太郎(同)、扇浦祐蔵(氷見市)の三家族がサンパウロ州内のコーヒー農場に入植したのが最初です。一九二七年(昭和二年)には、松沢謙二(高岡市)をリーダーとする県人四家族が、サンパウロ州ミランドポリス市第三アリアンサ地区に富山村建設の先発隊として入植しました。

昭和十二年には、この第三アリアンサ富山村の入植県人は、百四十一家族五百三十一人に達しました。

また、近年における富山県とサンパウロ州のつながりは、左の表のとおり、交流の緊密度がいつそう強いものとなってきており、この友好提携に至ったわけです。

今後の交流は

調印式において、中沖富山県